

工作機械工業 収益状況集計

(2020年度 第2四半期)

会員企業のうち2020年11月迄に2020年度第2四半期決算を公表している専業比率30%以上の上場企業16社を集計。集計調査対象企業における専業比率は79.6%。なお、今期は前期調査と同企業の16社で集計した。

1. 連結決算の概要

表1 連結決算の概要(16社)

(単位：百万円・%)

	20年度	20年度	20年度	前年同期比	19年度
	I期	II期	I～II期		I～II期
売上高	116,492	129,591	246,083	△ 30.1	352,117
売上総利益	30,329	32,853	63,182	△ 39.3	104,159
売上総利益率	26.0	25.4	25.7		29.6
営業利益	△1,712	600	△1,112	—	24,389
営業利益率	△ 1.5	0.5	△ 0.5		6.9
経常利益	△919	1,494	575	△ 97.7	24,821
経常利益率	△ 0.8	1.2	0.2		7.0
当期利益	△2,625	△501	△3,126	—	16,024
当期利益率	△ 2.3	△ 0.4	△ 1.3		4.6
総資産	956,083	962,608	962,608	△ 3.5	997,532
純資産	587,719	589,411	589,411	△ 2.8	606,389
自己資本比率	61.5	61.2	61.2		60.8
自己資本 当期純利益率 (ROE)	△ 1.8	△ 0.3	△ 1.1		5.3

(注) 自己資本当期純利益率 (ROE) は年率換算値

表2 損益状況一覧 (連結・I～II期計・前年同期比) (16社)

(単位:社)

	増 加	減 少	合 計
売上高	1	15	16
売上総利益	1	15	16
営業利益	2 (0)	14 (6)	16 (6)
経常利益	1 (0)	15 (6)	16 (6)
当期利益	2 (0)	14 (6)	16 (6)

※()内の数字は、赤字企業数。赤字幅が縮小した場合は「増加」、赤字幅が拡大した場合は「減少」となる

2. 2020年度通期見通しの概要

表3 【第2四半期時点】連結業績予想の概要（16社）

（単位：百万円・％）

	2020年度通期見通し			2019年度実績
	第1四半期時点 (13社、参考値)	第2四半期時点 (集計16社計)	前年度比	金額、比率
売上高	371,964	525,563	△ 25.8	707,855
営業利益	△ 3,906	△ 963	—	43,526
営業利益率	△ 1.1	△ 0.2		6.1
経常利益	△ 3,256	764	△ 98.3	45,069
経常利益率	△ 0.9	0.1		6.4
当期利益	△ 6,811	△ 6,037	—	18,137
当期利益率	△ 1.8	△ 1.1		2.6

表4 【第2四半期時点】連結業績予想の増減（売上高、経常利益）（16社）

通期 (対前年度比)	増収増益	0社	増収減益	0社
	減収増益	0社	減収減益	16社

◎第1四半期時点からの修正理由

【売上高、経常利益とも上方修正 …2社】

○第2四半期連結累計の売上高については、輸送機器関連事業は概ね公表計画通りに推移したものの、工作機械関連事業において売上案件のズレ込みがあり公表比減収となった。経常利益以下については、想定していた為替差損が差益に転じたため損失幅が縮小した。通期の連結累計予想は、新型コロナウイルスの収束時期は不透明であるものの、輸送機器関連事業は前年同期水準までの売上回復が見込まれ、公表比増収し、損失幅の縮小を見込んでいる。

○第2四半期連結累計の売上高については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が当初予想よりも業績に与える影響が少なかったため、前回予想数値を上回る結果となった。利益については、上記の売上高増加による影響に加え、第2四半期連結会計期間の製品在庫増加に伴う操業度差益等により、各段階利益とも前回予想数値を上回る結果となった。一方、下半期においては、売上高は上半期をやや上回る予想としているものの、当連結会計年度末の製品在庫減少に伴う操業度差損を見込むとともに、次なる反転期に備えた各種改善活動の経費増加等を織り込むことから、利益については前回予想に対し若干上回るにとどまるものと予想している。

【売上高のみ下方修正 …1社】

○経営環境は、新型コロナウイルス感染症拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていく中で、各種政策の効果もあって持ち直しの動きが続くことが期待されるが、新型コロナウイルス感染症の完全終息には時間を要し、特に自動車関連の世界的な需要減退は避けられない状況にあると予想される。こうした状況の下、下期の工作機械関連の販売が低調に推移する可能性が高いと想定し、売上高を下方修正。利益については、間接経費の削減等により利益の減少をカバーする見込みであり修正無し。

【経常利益のみ上方修正 …1社】

○環境の変化に対応したコスト削減が想定以上に進んだため

【売上高は下方修正、経常利益は上方修正 …1社】

○第2四半期連結累計期間の見通しは、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大や、中国経済の構造問題、米中貿易摩擦の影響等による景況悪化の影響を大きく受けることが予想された。しかし、ユーザの協力のもと営業活動や製品の納入検収、アフターサービス等において想定以上にリモート対応が進んだことから、売上高は期初計画を上回る見込みとなった。また、生産性向上による原価低減の取り組み、厳格な予算管理による販管費の抑制等の効果に加え、リモート対応の進展による旅費交通費等の抑制により、利益面についても期初計画を上回る見込みとなった。通期の見通しについては、売上高は期初計画を下回るものの、上記の取り組み等により、各種利益が期初計画を上回る見込みとなった。

【売上高、経常利益とも下方修正 …1社】

○期初の予想値には、新型コロナウイルス感染拡大の影響を合理的に算定することが難しく、その影響額を織り込んでいなかったが、現時点で入手可能な情報に基づき修正。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、一旦は収束に向かっていった地域でも再び増加傾向にあるなど、依然として先行きの予想が難しい状況にあり、下期においても不透明な状況が継続するものと見込む。

【第2四半期から見通し公表 …3社】

○新型コロナウイルスの感染拡大による工作機械の需要環境等が不透明であり、通期業績を見通すことが困難な状況にあることから未定としていたが、第2四半期の受注・売上状況、業績、及び今後の見通しと、受注、費用見込により業績予想を公表することとした。

○新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響を合理的に算定することが困難なため未定としていたが、最近の業績動向及び現時点入手可能な情報を基に算定。

○新型コロナウイルス感染症拡大に関する影響額について合理的な算定が困難であるため、いったん取り下げて未定としていたが、現時点で入手可能な情報に基づき算定し公表することとした。経済環境は、世界経済が新型コロナウイルス感染症の拡大による経済活動の停滞等により極めて厳しい状況が続くなか、各国の経済活動は徐々に再開しているが回復は緩やかなものにとどまることを予想している。こうした情勢のなか、グループの主要関連市場における需要の減少が当連結会計年度中は続くことを前提に売上高及び利益を算定。

3. 工作機械事業セグメントの概要

表5 工作機械事業セグメントの概要 (16社)

(単位:百万円・%)

	20年度		19年度 I～II期
	I～II期	前年同期比	
売上高	195,919	△ 33.6	294,925
営業利益	△1,137	—	23,873
営業利益率	△ 0.6		8.1
専業比率	79.6		83.8

表6 【参考】工作機械事業セグメントの概要 (22社)

(単位:百万円・%)

	20年度		19年度 I～II期
	I～II期	前年同期比	
売上高	255,402	△ 32.0	375,512
営業利益	△588	—	29,028
営業利益率	△ 0.2		7.7
専業比率	44.8		51.3

※表5の対象企業16社に加え、セグメント情報を公表している
専業比率30%以下の会員企業6社を加えた22社で集計
(1社は決算公表が1カ月延期となり、集計値には含めていない)

【調査対象会員企業 (順不同)】

(専業比率30%以上の集計対象企業)

エンシュウ株式会社
 浜井産業株式会社
 豊和工業株式会社
 小池酸素工業株式会社
 株式会社牧野フライス製作所
 株式会社岡本工作機械製作所
 OKK株式会社
 オークマ株式会社
 株式会社桜井製作所
 西部電機株式会社
 株式会社ソディック
 スター精密株式会社
 株式会社太陽工機
 高松機械工業株式会社
 株式会社滝澤鉄工所
 株式会社和井田製作所

(専業比率30%以下の集計対象企業)

株式会社F U J I
 株式会社不二越
 倉敷機械株式会社 (倉敷紡績株式会社)
 黒田精工株式会社
 株式会社三井ハイテック
 芝浦機械株式会社